

二〇一五年度 第一回バス部会 青森県八戸市で開催された

十一月九日、十日の二日間、第一回都市交通評議会バス部会が青森県八戸市で開催された。冒頭、主催者を代表し林崎部会事務局長が挨拶を述べ、「活発な意見交換を行い、次回の部会に繋げたい」と述べられた。続いて、進行を庭野部長(東京)が行い、報告事項として林崎部会事務局長から①二〇一三年度公営交通事業決算の概要②二〇一五年度交通事業関係政府予算の概要③二〇一五年度交通事業について報告があり参加者全員で確認された。次に、単組報告があり、各グループから二単組、計八単組が報告を行った。続いて、集約として、第二次政府要請に関するバス部会の要求書の再確認がされ、参加者全員で確認し、鈴木副部長が締めめの挨拶を行い、一日目を終了した。二日目は視察として、八戸市交通課を訪ね、事業部から事業概況、市内幹線バスの利便性向上の取り組み等の説明がされ、質疑応答がされた。その後、交通部の施設見学を行い、全日程が終了しバス部会が閉幕された。

十一月九日、十日の二日間、第一回都市交通評議会バス部会が青森県八戸市で開催された。冒頭、主催者を代表し林崎部会事務局長が挨拶を述べ、「活発な意見交換を行い、次回の部会に繋げたい」と述べられた。続いて、進行を庭野部長(東京)が行い、報告事項として林崎部会事務局長から①二〇一三年度公営交通事業決算の概要②二〇一五年度交通事業関係政府予算の概要③二〇一五年度交通事業について報告があり参加者全員で確認された。次に、単組報告があり、各グループから二単組、計八単組が報告を行った。続いて、集約として、第二次政府要請に関するバス部会の要求書の再確認がされ、参加者全員で確認し、鈴木副部長が締めめの挨拶を行い、一日目を終了した。二日目は視察として、八戸市交通課を訪ね、事業部から事業概況、市内幹線バスの利便性向上の取り組み等の説明がされ、質疑応答がされた。その後、交通部の施設見学を行い、全日程が終了しバス部会が閉幕された。



～八戸市交通部の様子～

全国の公営地下鉄(九都市)の労働組合による地下鉄部会が開催された。先ず報告事項として、①二〇一三年度各都市の決算概要②第一次政府要請に対する国土交通省の回答③交通政策基本計画原案に対する都市交評の意見について、④総務省通知「公営企業の経営にあたる留意事項」概要の四点があった。

続いて協議事項として、第二次政府要請の取り組みについて提案があった。報告事項②であった国土交通省の回答を受けて、更に追加・修正した第二次要請案が示された。全国的に自然災害による被害が増加し、今後も予断を許さない状況のもと、防災および大規模災害被害に対する予算措置を求めることなどを新たに追加することを確認した。また、次回の地下鉄部会は十二月に大阪で開催することを確認して会議を終了した。



～地下鉄部会の様子～

二〇一五年度 第一回地下鉄部会 十月二十九日(水) 東京・田町交通ビル

京都交運協第二十三回定期大会が開催された。協賛者として、小川寛議長が挨拶をされた。主権者挨拶をされた小川寛議長

あること、自転車走行マナー向上への取り組みを進めていくこと、などを述べられた。また活動方針(案)では、佐田事務局長が、「地方の過疎化などにより地域公共交通の存続が危ぶまれるが、『交通政策基本法』の成立を受け、地域公共交通の存続・活性化の取り組みを強化する。基幹産業として存続するための社会的貢献を尽くす」とことなどが提案され承認された。

京都交運協は、政策課題解決に向けてより一層の運動強化を図ること、交通運輸産業労働者の社会的地位向上を目指して、今後とも奮闘することを誓って第二十三回定期大会を終了しました。



主権者挨拶をされた小川寛議長



2014年度活動方針を提案された佐田悟事務局長

二〇一四年十一月二十八日(金) グランヴィア京都 京都交運協第二十三回定期大会開催

自動車部 2014年度部会要求書を提出!!

日時:2014年11月14日(金)11時15分～
場所:局庁舎3階大会議室

自動車部全体会議が開催された。冒頭、当局を代表して加藤自動車部長より、一秋の行楽シーズンの臨時バス運行のご尽力に大きな感謝を致します。多客対応についておてもなしキャンペーンと題して京都駅を中心に市内主要箇所、現場警戒員を配置しております。本年3月の運転計画において、営業所の再編や担当系統の変更が行われ、大きく職場環境が変化したと思っております。ハード面、ソフト面を整えお客様にとってご利用しやすい市バスとなることを最終目標にしております。本日、自動車部独自要求書をお受け渡しし、誠意をもって対応して参ります」と挨拶された。

続いて、山本保自動車部長から「今回は案内業務の参加はしない。運転士として質の高いサービスを提供したい。甲側におかれては、また京都の来たいと感じて貰えるように案内や警戒を充実させて欲しい。バス事業の中間報告で良い結果が出ていると聞いている。バスが築き上げた功績に対して対価を要求したい。更なる現場職員のモチベーション向上のために、自動車部独自要求書を提出し、誠意ある回答をお願いしたい。」と挨拶に立ち、自動車部独自要求書を提出し、全体会議を終了した。

なお部会要求の詳細については自動車部発行のニュースをご覧ください



山本自動車部長から加藤自動車部長へ要求書が提出された

電車部 2014年度部会要求書を提出!!

日時:2014年11月28日(金)14時～ 場所:局庁舎3階大会議室

第三回電車部甲乙全体会議が開催された。二〇一四年度部会要求書を提出した。冒頭、山本理事から、「組合員の皆さんには安全安心の意識を持って業務にあたっておられることに感謝いたします。二十六年上半期は前年を上回るお客様にご乗車頂き目標の五万人が見えてきました。要因として外国の方が多くお越しになるなど様々ですが、まだ一般会計から補助金を受けている状態であり、気を抜かず目標に向けていきたいと思っております。また十二月二十日から烏丸御池駅に可動柵が設置されるため、九月にダイヤ改正を行い皆様方の努力のおかげで順調に進めることができました。可動柵供用は画期的なもので安全の為に今後とも協議を重ねていきたいと思っております。お客様サービス全国一の取り組みは二年目となり、今後さらにワンストップあげられるよう、第三者モニターなどを導入していきます。お客様には気持ちよく、また乗りたいたいと思っております。お客様には「日頃の組合活動へのご理解、ご協力に感謝いたします。まず一年で最も混雑する紅葉シーズン」の先週の三連休では、天候にも恵まれ各地で最高の人出でありました。市バス・地下鉄「秋の週末」キャンペーンの実施につきましては、京都駅前バスターミナルをはじめ、各地下鉄駅で案内サービスの警戒などにご尽力いただきました。これまでの甲乙での運動は展開しておりますが、まだまだ土日は混雑が予想されますので、増発・警戒など対応を引き続きお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて辻井電車副部長が二〇一四年度部会要求事項を讀み上げて提出し、その後、各支部から要求事項の詳細について意見を述べた会議を終了しました。



初田電車部長から山本理事へ要求書が提出された

二〇一四年十一月一日から三日にかけて、岐阜市長川国際会議場「さらざら」にて、岐阜市市長川国際会議場「さらざら」にて、和主義を「戦争をさせない」私たちが平和を実現をめざす第五十一回大会(護憲大会)が開催された。

開会総会では、メイン会場「さらざら」にて、全国から二〇〇〇人が参加。前段オープニングは、各地の人権コンサートや講演にも出かける歌う旅人、シャンソン歌手今里哲さん、の熱い歌と軽妙なトークのミニコンサート。聞き入ったり笑ったり。

開会総会では、大谷米男・森林労働書記次長と、佐藤恵・自治労働組合本部副委員長・司会進行で始まった。この一年は安倍政権の戦争する国へ、監視社会へ、格差社会への暴走との闘いに直面している。私たちが最大の憲法の危機、平和と民主主義の危機に直面している。憲法九条、九条、九十九条、九十二条にわたっての必要がある。憲法九条は空洞化され続け、自衛隊は武力行使に拡大している。平和・民主主義、脱原発、憲法擁護の闘いは現実の構えを創る。護憲大会を通して、闘えれば安倍の暴走を止め、新しい希望を創る事ができることを確信したい。頑張りますよ」と訴えた。

地元歓迎のあいさつは河合良房・岐阜県実行委員長。「岐阜は天下分け目の決戦地。戦国時代に決着を付けた関ヶ原、古くは壬申の乱での不破の関、いずれも岐阜県内に理論の護憲大会で、今までの以上理論の護憲大会で、これからの天下分け目の戦いに勝ちましょう。憲法を守り、憲法理念を実現しましょう」と訴えた。

連帯あいさつは江田五月・民主党最高顧問と吉田忠智・社民党党首から。連帯メッセージは古賀伸明・連合会長、近藤昭一・立憲フォーラム代表などから寄せられた。

続いて藤本泰成・実行委員会事務局局長が基調提案。改憲阻止を呼びかけ総会を締め切った。

開会総会に引き続き行われたシンポジウムは「戦後七十年に向けて、私たちが確認しなくてはならないもの―歴史認識。憲法・沖縄・脱原発」と題し、司会に福山真樹・平和フォーラム代表、パネリストに「戦争をさせない」一〇〇〇人委員会・内田雅敏・事務局と憲法学者の飯島悠一・名古屋学院大准教授を迎え、村山談話について、また島田的自衛権について問題提起が行われた。

二日目は、「戦争をさせない」私たちが平和主義を、そして命を守ります!を総テーマに、七つの分科会と二つのフィールドワーク、三つのひろばが開催された。岐阜駅前じゅうろくプラザで行われた「第一分科会 非核・平和・安全と保障」に参加。分科会問題提起者は半田滋・東京新聞論説編集委員。「集団的自衛権の行使容認を閣議決定した安倍晋三首相。七月一日の記者会見では、ウソが満載された。首相のウソに騙されないための反論集」なる資料を基に分科会は進められた。

三日目閉会総会も同じくじゅうろくプラザ。①辺野古新基地建設を阻止するとりくみ②戦争をさせない一〇〇〇人委員会・信州のとりくみ③強制連行犠牲者追悼碑をめぐるとりくみ④オスプレイ配備に反対するとりくみ、の四つが特別提起された。続いて藤本泰成・実行委員会事務局局長が大会のまとめ報告をおこなない、北島あづさ・連合女性委員会副委員長が大会アピールを讀み上げ三日間の大会を締め括った。

山本保自動車部長



～分科会の様子～



～分科会に参加～



～大会の様子～